

# 偽アイエフの次元記

神無月 雪華

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ある日気が付くとアイエフになっている事に気がついた

# 目次

P r o l o g

始動

1

第一章 プラネテス

1  
1

7



## P r o l o g

## 始動

電子機器の駆動音だけが暗闇に木霊する室内に人影がひとつ

「セキュリティの突破完了。必要なデータは・・・」

僅かにモニターの光で照らされた人影は、頻りに周りを警戒しつつキーボードを打ち込んでいく

その容姿は年齢15程度の少女であった

「っ！これと、これ？いや、これはダメー？ちっ！時間が無いってのに」

モニター上にはファイルが頻りに開かれては閉じられていく

少女は苛立ちを滲ませつつも的確にプロテクトを掻い潜っていく

「あつた！後はさっさとトンズラっ!？」

突如大音量アラームが鳴り響くと共に警報が流れ出す

『侵入者を検知しました。繰り返しします、侵入者を検知しました。』

「データを抜き取ったら警報がなる仕組み!?クソツタレ!」

目を見開き焦りを見せるが少女はすぐ様、常人からしたら仰天物の跳躍力で侵入して

きたダクトに潜り込む

次の瞬間扉が開き武装した大柄な人物達が部屋になだれ込んで来る

「お仕事が早い事で!!」

ダクトを素早く前進し、脱出ルートを走って目的地へ急ぐ

「居たぞ!?!逃がすな!」

「もう見つかった! 要らない所にばかり力注いでんじやないわよ!」

武装集団が引き金を引くより僅かに早く横へ続く通路に逃げ込んだ少女はすぐ様腰にぶら下げている球体に付けられたピンを引き抜き銃弾の放たれている方へ放り投げる

背を向け走り出した少女の背後で眩い閃光と轟音が響き渡る

「っ!外に出れた! さっさとズラかるに限るわ!」

背後の施設の近くに隠して押したバイクに跨るとすぐ様エンジンに火を入れフルスロットルでかつ飛ばす

バイクを走らせ30分程過ぎ、街の灯りが見え始めた所で周囲を警戒しつつバイクを停めて耳に着けてあるインカムにスイッチを入れ連絡を取る

「此方アイエフ。データを入手したわ」

「了解しました。申し訳ありませんがデータを届けてくれますでしょうか？」

「そこまでが仕事だから気にしなくていいわ。それより危険手当はちゃんと払って貰えますよね？」

インカムから聞こえた子供の様な声にアイエフと名乗った少女は溜息を吐きながら発言する

「それは勿論です。違法研究を行っている証拠ですから危険手当とボーナスをお出しします。それより怪我は有りませんか？」

「問題ないわ。少しコートが汚れた程度よ。じゃあ、これから教会に戻るわ、後の仕事はそちらにお任せしますね、イストワール様」

返事が返ってくるより前に通信を切ると星空を見上げながらアイエフは深く溜息を吐く

「はあ、もう少し危険が無い仕事は無いのかしら。本来のアイエフはこんな危険な仕事は・・・してたかもしれないけど、ギャグよりの作品でしょゲームギョウ界って」

頭を振るとバイクに跨り夜道を走らせていく

『<sup>アイエフ</sup>私』は孤児院で暮らしており街のテレビに映っていた『女神様』を見た事で自分の前世とこの世界の事を思い出した

超次元ゲームネプテューヌ

前世でプレイしていたゲームハードやゲームメーカーの擬人化したロールプレイングゲーム

そして私はその登場人物の一人

アイデアアクトリーのに擬人化キャラ



ゲームギョウ界に吹く一陣の風

厨二病のツツコミ役

主人公ネプテューヌの親友の一人

作品の一つで自身も主人公になる

など細かい所を挙げれば他にもたくさんある

そんな存在に自分が為ってしまった

最初は当然戸惑った

本来のアイエフに自分の様な異物が混ざってしまったのだ

ネット小説で良く見る憑依転生と言うやつなのか？とか、原作崩壊を引き起こしてし

まうとか色々考えた

しかし、そんな他人事はすぐ様現実的な問題へと変わっていく

自分が住んでいる孤児院はプラネテューヌの都心部に存在しているが経営が火の車で何とかやり繰りしている状態だったからだ

プラネテューヌの治安は比較的良く、女神による統治も悪くは無いが、どうしても富の行き渡らない弱者とは存在してしまう

親の居ない或いは親より棄てられた子供達とはどう足掻いても社会的弱者だ

その上、自分は齡7歳ときた

この孤児院が潰れてしまえば悪意あるもの達にすぐさま食い物にされてしまうだろう

故に経営が少しでも楽になるようにお金を稼ごうと思った

考えた結果行き着いたのはギルドの採取系の依頼を受けて少しでも資金を稼ぐという物だ

原作どうこう等より自分が生きていけるかの方が重要なのだ

その為なら原作崩壊など知らぬ存ぜぬで行こうと思う

というか、この次元がどの作品でも戦いに挑めるほどの度胸は持ち合わせていないから

取り敢えず今は院長に話をしておこう

戦いはゴメンだが、ファンタジーワールドは少し楽しみだ

# 第一章 プラネテス

1—1

院長から許可を何とか取得したが、危ない事はしないと釘を刺された  
大丈夫です、そんな度胸ないので

取り敢えず部屋に行つて汚れてもいい服に着替えよう

数人一緒の部屋なのだがそこはしょうがないし屋根があつてベットで寝れて食事が  
出るだけでも贅沢だろう

しかし、前世の記憶を思い出したは良いがそのほぼ全てが霞んで居るのはいかな物  
か

いや、まあなくても何も困らないけれどサブカルチャー関連だけ良く覚えていると何  
かこう、悲しい様な、何とも言えない感じになつてしまふ

部屋に入るとベットに腰掛けて本を読んでる少女が目に入る

「あれ、アイちゃん。どうしたんです？今日はお外にお散歩に行つたんじゃないんです  
か？」

あ、うん

この子コンパだわ

いや一緒に暮らしているから知ってるんだけど思い出した記憶のせいであつかりしていたというか、キヤラとしての『コンパ』として認識したという感じだろうか？

「ちよつとこれからギルドに行つてお小遣い稼いで来るのよ」

「ギルドで、お小遣いをですか？」

「こてん、と首を傾げる可愛い生き物

「ええ、薬草を拾う依頼を受けてお小遣いを稼ぐの」

「じゃあ、私もついて行くです！」

「ふんすー！みたいな効果音がしそうな感じで立ち上がったコンパには申し訳ないのだが  
が

「ごめんなさいコンパ、院長から許可貰ったの私だけなの。貴方は此処でのんびりして  
て」

「ええ、残念ですう」

「今度許可を貰えたら一緒に行きましょ？」

「約束ですよ」

動き易いシャツとパンツの上から少し大きめのお下がりのジャケットを羽織り部屋

を出る

コンパには悪いけどコンパはそのままゆるふわに育って欲しい

ギルドにやって来たのだが、ゲーム内のイラストで見えてた通り結構機械が並んでいる

流石ゲームギョウ界、技術進歩がよく分からない感じで進んでるわね

いや、ロボットがいる時点で大分あれか

「ギルドへようこそ！どんな用事出来たのかな？」

受付に向かうと受付のお姉さんが朗らかな笑顔をしながら優しく声を掛けてくる  
「登録をしてクエストを受けたいのだけど」

「え、お嬢ちゃんが？危険だよ？」

「大丈夫よ。薬草とか簡単なクエストしか受けられないもの」

「うーん、でも・・・」

「危険だったら直ぐに逃げるし無茶はしないわ！」

渋々といった感じで受付のお姉さんは登録を済ませてくれた

問題は依頼端末が今の私には高かったせいで依頼を受けるのに受付のお姉さんに持ち上げてもらうとか言う公開処刑を受けた事だろう

この屈辱はいつか必ず晴らすわ、いやほんとに

お姉さんから慈悲でナイフを貰った

薬草採取と護身用に二本も

このお姉さん良い人過ぎない？

今回の件はチャラにしてあげるわ！

ではネプテューヌシリーズお約束のバーチャフォレストに薬草採取イクゾー

バーチャフオレスト舐めてたわ

薬草が全然見つからない

雑草しか無い

受付のお姉さんに薬草と雑草の違いの紙貰ったけど雑草しか見つから無いのどうい

うこと

薬草がー

薬草が無いぞー！

そう、皆近場で薬草を採取するのである

どうしてー！どうして薬草がないのー！

可笑しい、受付のお姉さんの話では薬草採取のクエストは毎日誰か一人は必ず依頼を出す程ありきたりのクエストの筈だ

なのに一時間探して薬草が見つからないとは

何かあったに違いない

一体、何が・・・

そう、皆近場で採取する為近場の薬草は取り尽くされているのである！

「さて、脳内で雑にパロもして落ち着いたし・・・どうしましょうか」  
もう少し深くまで進んでみる？

いや、でもモンスターが出てくるかも知れないし

少し進んでみてモンスターが居たら逃げるとしますか

「木や草むらに身を隠しながら進んでみたけど、あれは・・・」

木の陰からようやく見つけた薬草の傍に居る存在を注意深く見る

「ぬーらー」

「どう見てもスライヌよね、犬耳生えてるスライムだし」

ぬらーとか気の抜けるボイス辞めて欲しい

リアルでそんな声してるのスライヌ

問題は、弱そうに見えるが自分が勝てるかどうかだろう

危なければ逃げるけれどスライヌは自分の実力を知るのに丁度いいだろう

そう言えばゲームだとレベル式だったがこの世界でもレベル式なのだろうか  
いや、そもそもどうやって調べるの？



「もうなんか面倒臭いからくたばグハア！」

スライヌ舐めてたわ

突進頭突きめつちや痛たいわ

弾力のある枕ぶつつけられたみたいなダメージだったわ

アイエフちゃん7歳ぼでえにそんなダメージ食らったらそりや痛いわ

痛いけど余程の事がないと死にはしない事が分かったからこのスライヌには八つ当たりさせてもらいましよう

無理なら逃げるだけね怖いし

滅多刺しにしてやるわ！（出来るとは言つてない）

「私のナイフの錆にしてあげる！」

両手にナイフを持ちスライヌに切り掛る事数分

長く苦しい戦いだったわね

主に腕への負担と弱いものいじめてる様にしか見ないな絵面が

しかも何も落とさないし

「腕が疲れた……。き、筋力を付けないと駄目ねこれ」

体力を過信してたわ

今後の課題として筋トレと体力作りが追加されたけど、今は薬草を採取しちゃいましよう

「これは薬草、これは薬草、これは雑草、これは・・・雑草」

これもこれもこれもこれも雑草

薬草少なあ!?

いや、必要な数は集まったけどそれにしたって少ないわ

多分此処も人が採取してるのでしようね

さっきのスライヌ以外モンスターを見ないし

「これ以上長居してもアレだし帰りましょうか」

次からもう少し先に行かなきゃ駄目かしら?

それより先にトレーニング?

いや、ネプテューヌワールドだからレベル上げ?

トレーニングで基礎体力を付けてモンスターを狩ればレベルが無くて何とかなる

でしょ

なるわよね?

「はい、依頼の薬草はこれで全部ね。クエストクリアよ、おめでどう」

「ありがとうございます」

受付のお姉さんに薬草を納品して初クエストを完了した

薬草採取だけと達成感があるものね

「それで、クエストを受けてみてどうだった？」

「そうね、まずは筋力を付けないと駄目ですね」

受付のお姉さんはあくみみたいな感じに納得してスクスクと笑っている

笑い事じゃねえんだよ！

「ご、ごめんね？悪気があった訳じゃないのよ」

「悪気が無いなら良いわけじゃないですよ？」

「う、ごめんってばあ〜」

いかん、このお姉さん可愛い

「取り敢えず暫くは体力作りを主にちまちま薬草採取とか簡単なクエストを受けて行く

事にします」

「そっか、そう言えば君はなんでクエストを受けに来たの？」

「私、孤児院に住んでるんでお小遣い稼ぎに、と」

「・・・そっか、頑張ってるね？」

「今日は色々ありがとうございました」

お姉さんにお礼を行ってギルドを後にする

「さて、報酬で孤児院の皆にお菓子でも買って帰りましょうか」

お安いお徳用のタイプをだけど

余談だが買っていったお菓子は私が食べる前に完食されていた

結構な量あったはずなのに、だ

べ、別に悲しくなんてないんだからね！